

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第20回『「受け入れることで はじめて見えてくる ものがある」
～ ひたすら走る ～』

中島秀一 先生より、新刊『二十一世紀の家族』が送られて来た（画像1）。『全292頁 全19章の本です。第14章「新しい家族関係の創出」と、第18章「日本文化と日本人」の中で、樋野先生 と がん哲学外来、樋野先生と 武士道 について 書かせて頂きました。』と お手紙に記載されていた。大いに感動した。本書には、新渡戸稲造（1862-1933）のことも多数、記述されている。

中島秀一 先生の人生は、

- 1) 私が受けた試練は、世の常であること
- 2) 私が受けた試練は、耐えられること
- 3) のがれる道が、備えられていること

まさに「後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、一 目標を目指してひたすら走ることです」（フィリピ3章13節、14節）であろう。

『がん哲学外来さいわいカフェ in 茨城・筑西』代表：海老澤 規子 氏からは、タイミング良く 絵葉書「受け入れることで はじめて見えてくる ものがある」（『日めくり 人生を変える言葉の処方箋』）が 送られて来た（画像2）。大いに感激した。

萩原栄光教会担任牧師

中島秀一 著



二十一世紀の家族

牧会歴59年の
現役牧師が
辿り着いた
“家族観”
“死生観”とは



混迷の二十一世紀を

生きる私たちに、

家族さえも分断される

かのような時代に、

本書は大きな示唆を

与える。

井上 義実

発行 萩原栄光教会
発行 いのちのことば社



受け入れることで
はじめて見えてくる
ものがある

出典「日めくり 人生を変える 言葉の処方箋」榎野興夫 6